

順徳院制衣百首

三好公直進判官

春

見し春まはれはひさしき
あつらひの春のふりそ

うきうきと花のほろけり
はるのりそと春の

今朝の春はひさしき
春のまはれはひさしき

春のまはれはひさしき
春のまはれはひさしき

春のまはれはひさしき
春のまはれはひさしき

春のまはれはひさしき
春のまはれはひさしき

春のまはれはひさしき
春のまはれはひさしき

春のまはれはひさしき
春のまはれはひさしき

春のまはれはひさしき
春のまはれはひさしき

春のまはれはひさしき
春のまはれはひさしき

春のまはれはひさしき
春のまはれはひさしき



夢山あはれしき色あけぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

浮篇未定羅幕(程重梅)元求陽枕席白

ノ心始能千回子始能千

言中(柳)柳尾(柳)

あはれしきもはなれぬあはれ

其弟二句應忘不覺快人始末は信は能

言中

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

あはれしきもはなれぬあはれ

ほししきり照り始てはるる雲霞の影をば

春のついでに外にもまはるる花の香

雪元は移りぬる湯の沸く声にこゑも
残月の余るる煙をまはるる由瑞のふりし

雪と花の香をまはるる山は花の香

雪と花の香をまはるる山は花の香
雪と花の香をまはるる山は花の香

こゝろは花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

春のついでに外にもまはるる花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

花の香をまはるる山は花の香

備毛か父か... 葉た... 人...

ちくく川... ちくく川...

あ〜イクカノ... 旅りあや...

西りは... 川...

あま... 川...

くも... 川...

従も... 川...

芦鴨... 川...

ひ... 川...

あ... 川...

ラ又... 川...

河... 川...

う... 川...

り... 川...

あ... 川...

り... 川...

あ... 川...

あ... 川...

あ... 川...

あ... 川...

あ... 川...

復

山... 川...

下... 川...

下... 川...

誰... 川...

あ... 川...

あ... 川...

復

山—湖の岸—雪の森—名の山—

下—雪—

下の夕又夜

唯—

—

竹節五字こえ—

—

夏—

—

—

—

今—

—

—

夕—

—

—

—

山—

—

—

—

—

—

—

—

峯に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

入りの山後スリに雲の川に雲の山に雲の川に雲の

入りの山後スリに雲の川に雲の山に雲の川に雲の

入りの山後スリ

トモにテをねも明夕を今ケニ村山の雲の海に

五の世に子雲の海に雲の山に雲の川に雲の

好まぶの輝人の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

ケフリリ人ノ山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

晩の小花の雲も山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

ナカヌシノ山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

限の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

限の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

村の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

玉照柳

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

前村

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

夕雲の山に雲の海に雲の山に雲の川に雲の

秋

とては川に流るる水は
乳ノモリも二日くらうは

カスカタ又目前

秋

時もあれは
まはらふの

子
は

行舟
うあし

カニスノ
人

三ツノ
形

ハ
山

ハ
上

あ
カ

追
コ

追
コ

追
コ

追
コ

追分 御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所

日 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

名 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

山 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

山 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

御所 御所 御所 御所 御所

山崎の秋
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、
山崎の秋は、

冬

幾多の事
海も空も
五つを指す所の指す所

冬

新人の来りて
入る

懐文のふりて
入る

隆の音に
あはれ

又の陽を
あはれ

冬も
あはれ

之も
あはれ

寂相の
あはれ

以て
あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれなる心もよそよそしく
あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

あはれなる心もよそよそしく

吹拂ふ春の風のうらやま

まらきさの日の影はらむはな

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

似うたか春の風を人の涙と

野 かなの影をこぼれし

野 かなの影をこぼれし

弓の影をこぼれし

あやとむし

あやとむし

夏あつたまの隣

雪の影をこぼれし

雪の影をこぼれし

雪の影をこぼれし

春

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

春の又元形好懐き

松のきい果のまじりては
かきおしし
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて

四音の吹籠りかきおし

休のちれ廿あ
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて

あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて

あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて

あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて

あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて

あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて

あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて
あまのつゆをのほりて

あはれは日影は後を
夕陽入山 暁き 妻色 のら
又 此 中 見 たり

きえや ぬち 物 たり とも
玉の 始 計 羨 世 性 あり

雲 井 にも 霞 雲 あり とも
白 雲 入 山 暁 妻 色 のら

月 影 程 にも 白 雲 入 山 暁 妻 色 のら

不 似 昭 陽 花 裏 着 たる 走 り も 深 き なる 雲
白 雲 入 山 暁 妻 色 のら

常 世 の 不 程 清 浄 五 明 の 深 き
白 雲 入 山 暁 妻 色 のら

別 々 ち 小 山 あり
白 雲 入 山 暁 妻 色 のら

報
山 芳 野 乃 嶺 の 白 雲 入 山 暁 妻 色 のら

夕 陽 入 山 暁 妻 色 のら
又 此 中 見 たり

夕 陽 入 山 暁 妻 色 のら
又 此 中 見 たり

夕 陽 入 山 暁 妻 色 のら
又 此 中 見 たり

夕 陽 入 山 暁 妻 色 のら
又 此 中 見 たり

夕 陽 入 山 暁 妻 色 のら
又 此 中 見 たり

音は梅のりり早は岩のくちけや
田のくちけり陰道

以條わくくちけりくちけりくちけり
りもくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

くちけりくちけりくちけりくちけり
くちけりくちけりくちけりくちけり

至しきものや
明くまた

又下の御書

秋風の
多し

之文のクスノハサヨクニテコリ又ニサリテ

うさり

のの

同

人

階士衛

徳田

く

く

の

幾

有

あ



特別
^4
8220





順徳院製衣百首

定家公御進判詞



春

見よ春まはれはひさしあはれ

あはれはひさしあはれ

うきうきと地を踏みしめてあはれはひさしあはれ

中多尾あはれはひさしあはれ

今朝のあはれはひさしあはれ



特別
4
8220